

## 学会報告: 第58回日本糖尿病学会年次学術集会

第58回日本糖尿病学会学術講演会が27/5/21-23まで下関市を中心に行われました。下関市は比較的小さい街でそこに1万数千人の参加者が押し寄せ、6つの会場に対岸の門司市まで、実に本州から九州まで股にかけての糖尿病学会始まって以来の広域の開催となりました。私は九州の小倉に泊まって、下関まで毎日電車で通いました。会場があまりに広域すぎて残念ながら全部の会場をくまなく回ることはできませんでしたが、酒も飲まず、ふぐも食べずで可能な限りつぶさにまわってきました。期待の新薬SGLT2関係の演題が多く、他の話題を見つけるのに苦労する状況でした。当院からもシンポジウム1題、口演2題、ポスター4題の発表がありました。

### 「発表者の一言」

今回の学会ではシンポジウム22「糖尿病療養指導を支えるCDEJの底力」～力量アップの取り組みと課題～『薬剤師はCDEJとして何ができるのか』という題名でシンポジストをさせていただきました。今回は日本糖尿病療養指導士認定機構との初めての合同シンポジウムで、各職種の方々がCDEJとして自分達がどのように活動しているかの発表でした。私も薬剤師としての活動報告をさせていただきました。今後、CDEJとしての課題も多くあるとは思いますが、これからも頑張っていく力を与えてくれるシンポジウムになったと感じました。

薬局 中野玲子

なお、学会のシンポジストは当院始まって以来でシンポジストに選ばれるというのは大変名誉なことです。中野薬局長は院内業務の傍ら多くの講演もこなし、その活動が評価されたものと思います。残念ながら勇姿をおさめることはできませんでした。(種田記)

ランタス注、レベミル注2回/日注射している人をトレシーバ注1回/日に切り替えてその成績を比較しました。非劣性の効果が認められました。数少ないインスリン注射のセッションで司会の先生の舵取りが上手で大変参考になりました。

種田紳二

「持続血糖測定 (CGM) を用いた糖尿病透析患者における血糖動態の検討」の演題で口演発表をして参りました。糖尿病透析患者様の血糖変化についてはまだまだ不明な点が多く、研究が始まったばかりの分野です。今回も熱心な討論が行われ大変勉強になりました。早速日々の診療に生かしていきたいと考えております。

萩原誠也



豪華客船パシフィックビーナス号。ここも会場と宿泊に使われました



土田医師



種田医師

今回はビクトーザ長期使用例を発表しました。  
発売当時新しいと言われていた薬剤も発売後約5年となりました。  
今年もまた慌ただしい日程でした。  
坂東秀訓

今回発表させていただいた内容は、CGM検査時に用いられるエンライトセンサ穿刺時に、VeinViewerFlexを用いることで出血回避可能であるかというものであります。統計学的有意差が認められませんでした。VeinViewerFlex使用群で出血症例は少ない傾向にありました。他施設でもエンライトセンサ穿刺時に出血を伴う症例はあるようで、何か対策はないものかと頭を抱えている施設は多いようです。このため、今回発表させていただいた内容は、非常に意義のあるものだと考えられました。また、これまで我々臨床工学技士が糖尿病学会の場で発表させていただくことは多くはありませんでしたが、今回他施設の臨床工学技士がCGMに関することを発表されており、今後この分野での進出が予想されました。またこの分野の発表数は少ないため、私自身が先駆者となりこの分野の研究を続けていく所存であります。

臨床工学技士  
小林 陽介

Von Hippel-Lindau病（以下vHL病と略す）は小脳、網膜、脾臓、腎臓、副腎など全身性に腫瘍、嚢胞をきたす稀な常染色体優性遺伝性疾患であり、4万人に一人、日本で100家系が報告されていますが、糖尿病の発症はまれとされています。今回、多発性脾嚢胞を呈し糖尿病を合併したvon Hippel-Lindau病の一例を経験し、VHL病では脾嚢胞の合併は多いが、糖尿病を発症し、インスリン依存状態へ至ることは少なく、貴重な症例と考え報告しました。

土田 健一

発表はポスター発表を行ってきました。時間帯が2日目昼のこともあり、会場には多く人が集まり、それぞれの興味のある演題に耳を傾け、質問をしたりと熱気にあふれていました。

私の発表していた会場でも盛んな討論がされていましたが、マイクなどの設備が無いため、周囲の声などで発表の声が届きにくく、自身の発表も含め、十分に内容を伝えることが出来ないことがあり、少し残念な感じを受けました。

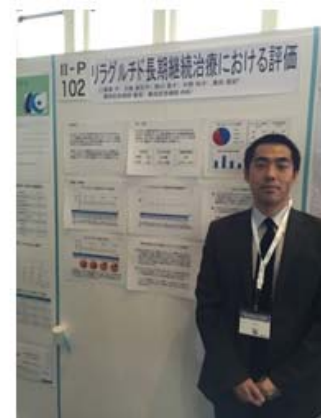
薬局 葛葉守

また萬田院長が「食事療法3」のセッションの座長を務められています。

来年も多数の発表をされることを期待しています。種田記



坂東医師



葛葉薬剤師



萩原医師



小林臨床工学士



萬田院長